

## 報 告

## 平成 24 年度学生生活実態調査報告（萩キャンパス）

西本佳代\*1

キーワード：学生調査、アンケート

## 1 はじめに

平成 24 年度に山口福祉文化大学萩キャンパスに入学した学生を対象として生活実態調査を実施した。本稿は、その調査結果を報告すると共に、調査で得られた知見をもとに本学における学生支援の在り方について考察することを目的とする。

2000 年の文部省高等教育局報告「大学における学生生活の充実方策について」では、「教員中心の大学」から「学生中心の大学」へという大学づくりの方針転換が示された<sup>1)</sup>。この「学生中心の大学」を体現すべく、現在、数多くの大学で大学改革が行われている。

確かに、そうした改革が行われ、大学づくりに学生の視点が活かされることは好ましいことである。しかし、同時に改革の多くで学生が置き去りにされているという現状も指摘されている。すなわち、大学改革の多くが「学生のニーズ」を強調しているものの、そこでの「学生のニーズ」とは、大学経営者や教員のイメージによって形成されたものが多く、結果として、大学が提供するカリキュラムと学生が求める知識・技能がミスマッチをおこしている可能性があるという<sup>2)</sup>。

そこで、本学の学生の実態を把握するため、平成 24 年度に萩キャンパスに入学した学生を対象とした生活実態調査を実施した。彼らはどのような生活を送り、どのように学習に励んでいるのだろうか。その現状を知ることで、今後、生活環境や学習環境を整備する際の基礎的な資料にできると考える。以下では、調査結果について、グラフを用いて報告したい。

## 2 分析の方法

2012 年 6 月に平成 24 年度入学生必修「基礎ゼミ I」の時間の一部を使って質問紙調査を実施した。分析対象者の属性は、表 1 の通りである。

性別は、男性 56.7%、女性 43.3%であり、ほぼ同じ割合となっている。年齢については、18 歳が 73.3%と圧倒的に多く、浪人をせずに本学へ入学している学生がほとんどであることがわかる。19 歳、22 歳、24 歳については、それぞれ、20.0%、3.3%、3.3%となっている。

以下では、この 30 名の平成 24 年度入学生について、大学入学以前の経験、大学での日常生活、学業、課外活動、就職、健康、アルバイトの 7 点について報告する。

表 1. 分析対象者の属性

男	女	合計		
56.7	43.3	100.0(30)		
18歳	19歳	22歳	24歳	合計
73.3	20.0	3.3	3.3	100.0(30)

注：表中の値は%、（）内は度数を示す。

\*1 山口福祉文化大学 ライフデザイン学部

### 3 調査結果

#### 3-1 大学入学以前の経験

##### ①出身地

「九州・沖縄地方」の出身者が最も多く44%となっている。次いで、「中部地方」の17%となっており、「萩市」の出身者は13%である。実家から大学に通う学生よりも、出身地を離れて大学に通う学生が大多数にのぼることがわかる。

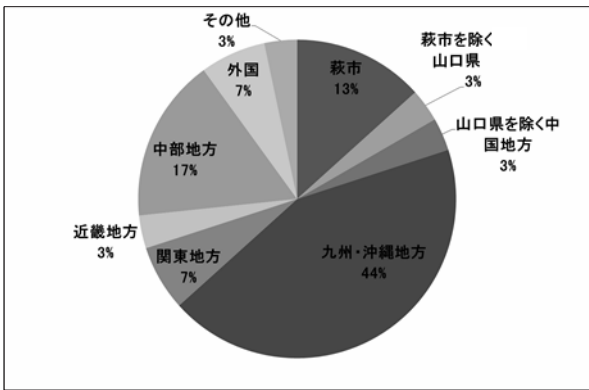


図1. 出身地 (n=30)

#### 3-2 大学での日常生活

##### ①通学方法

「徒歩」で通学する学生が64%と半数以上を占めている。次いで、「自転車」13%、「自動車」13%となっており、大学の「バス」を利用する学生は7%とわずかなのである。多くの学生が大学の寮から通学しているものと推察される。

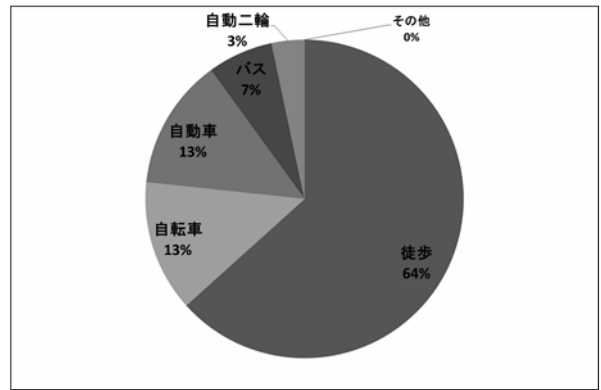


図3. 通学方法 (n=30)

##### ②出身高校

「普通科系」出身者が74%となっており、大多数を占めている。「普通科系」以外については、「商業科系」13%、「総合学系」3%となっており、「工業科系」、「農業科系」、「家政科系」、「大検」は該当者がいない。なお、「その他」には保育科と福祉科が挙げられた。

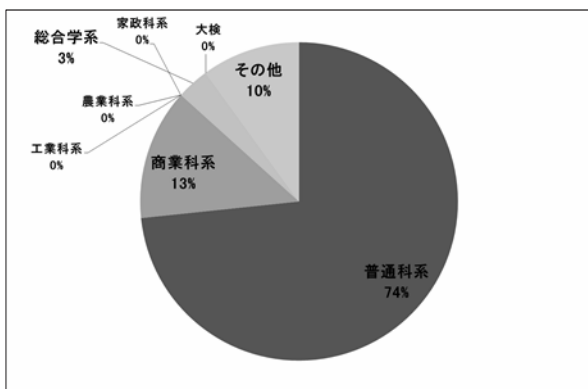


図2. 出身高校 (n=30)

##### ②平均収入

「家庭からの仕送り」は「なし」と答えた学生が56%と最も多い。「奨学金」については、「なし」が42%で最も多く、次いで「5万円以上～7万円未満」の21%となっている。「アルバイト」は「なし」が50%で最も多く、次いで「3万円以上～5万円未満」の21%である。「その他」は、「なし」が最も多く93%である。

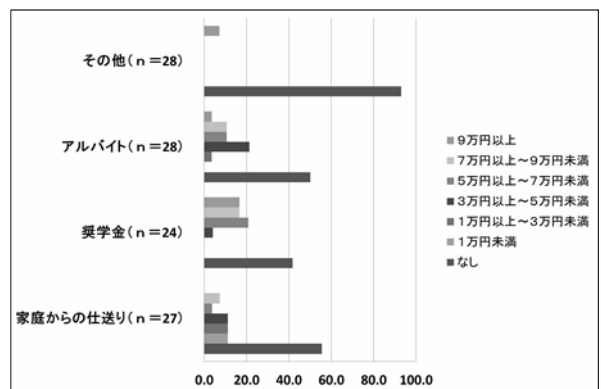


図4. 収入

### 3-3 学業

#### ①授業への出席状況

「70%程度」出席する学生が最も多く53%となっている。また「90%以上」は40%となっており、ほとんどの学生が授業に出席していることがわかる。なお、授業時に調査を実施したため、授業に来ていない学生の状態は反映されていない。解釈にあたり、その点には留意が必要である。

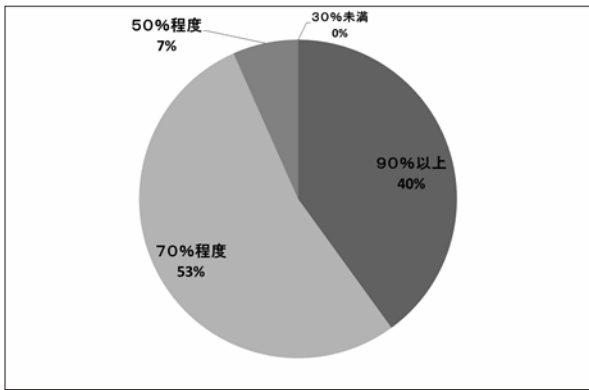


図5. 授業への出席状況 (n=30)

#### ③受講態度

「先生に質問したり、勉強の仕方を相談したりしている」という受講態度を問う項目については、「あてはまらない」37%、「あまりあてはまらない」33%となっていた。授業には出席してはいるものの、先生に質問するといった積極的な学習にまでは至っていない学生も少なくないと推察される。

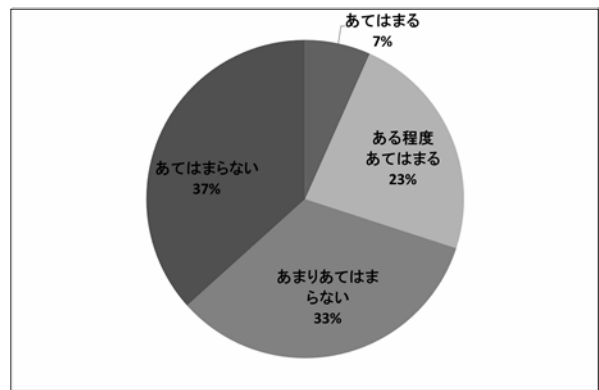


図7. 受講態度 (n=30)

#### ②授業の欠席理由

授業の欠席理由として「寝坊」を挙げる学生が最も多く45%となっていた。次いで、「意欲がわからない」の21%、「授業がつまらない」の10%が続く。「趣味・レジャー」と「アルバイト」は0%であり、他の目的のために授業を休む学生は少ないことがわかる。

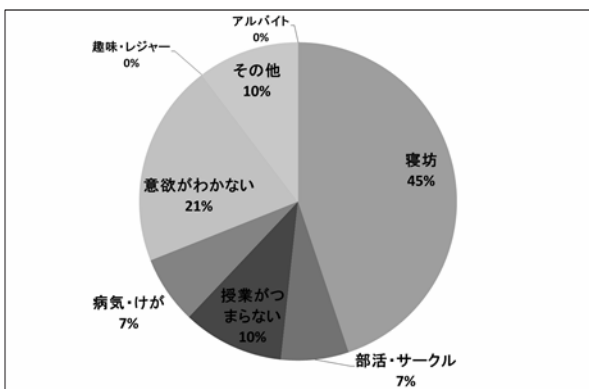


図6. 授業の欠席理由 (n=29)

### 3-4 課外活動

#### ①部活・サークル・同好会への所属

部活・サークル・同好会に所属している学生は72%、所属していない学生は28%となっている。強化部に所属していない学生についても、多くは何かしらの課外活動に参加していることがわかる。

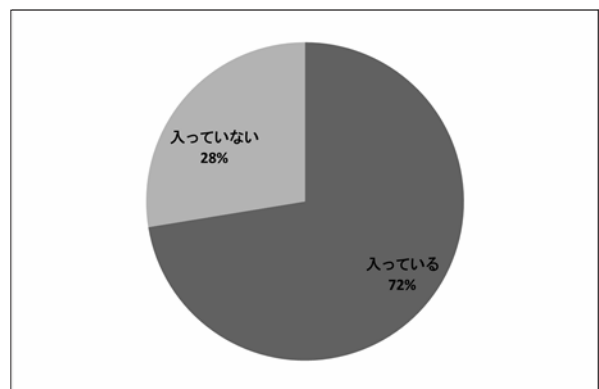


図8. 部活・サークル・同好会への所属 (n=29)

## ②入らない理由（未所属者のみ）

部活・サークル・同好会に所属していない学生に対して、入らない理由を尋ねたところ、「魅力的な部活・サークルがない」、「時間的余裕がない」がそれぞれ25%となっていた。また、「学業の妨げとなる」と考える学生も12%存在した。なお、「その他」については、「バイトとの両立する自信がないため」、「今から入る勇気がない」などが挙げられた。

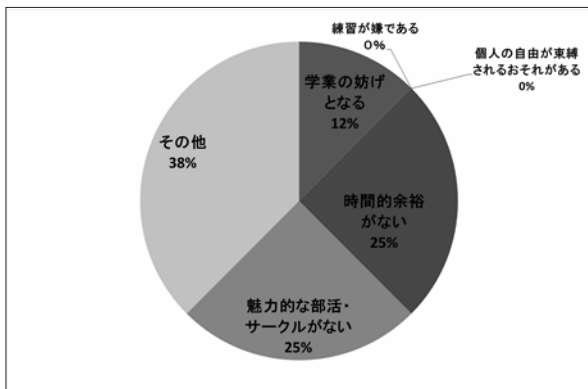


図9. 入らない理由 (n=8)

## ②希望する就職地

希望する就職地は「中部地方」が33%と最も多くなっており、それに「九州・沖縄地方」の27%がつづく。「九州・沖縄地方」については、出身者が多いため、地元就職を目指しているものと推察される。「萩市」は10%とさほど多くない。

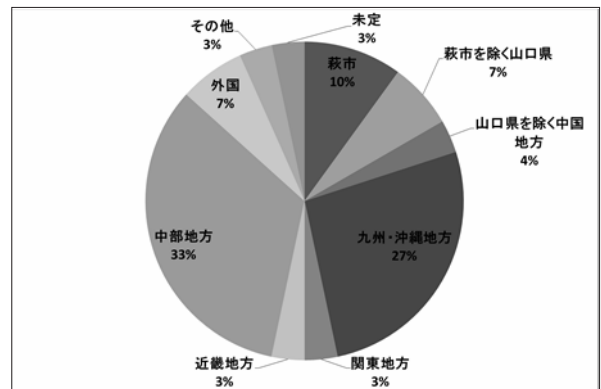


図11. 希望する就職地 (n=30)

## 3-5 就職

### ①進路希望

卒業後どのような職業につきたいか決めている学生は33%、決めていない学生は67%となっていた。大学に入学したばかりの一年生にとって、卒業後の進路はまだ先の話であり、漠然としか考えられない様子がかがえる。

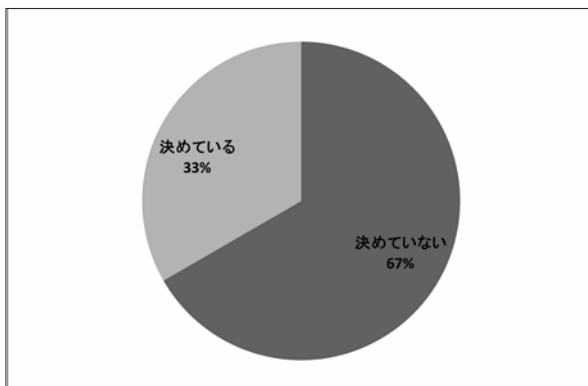


図10. 進路希望 (n=30)

## 3-6 健康

### ①現在の健康状態

現在の健康状態については、「どちらとも言えない」が最も多く33%となっていた。また、「非常に良い」23%と「良い」20%を合わせると約半数にのぼり、大多数の学生の健康状態は悪くないことがうかがえる。その一方、「悪い」17%、「非常に悪い」7%と回答した学生も存在しており、留意が必要である。

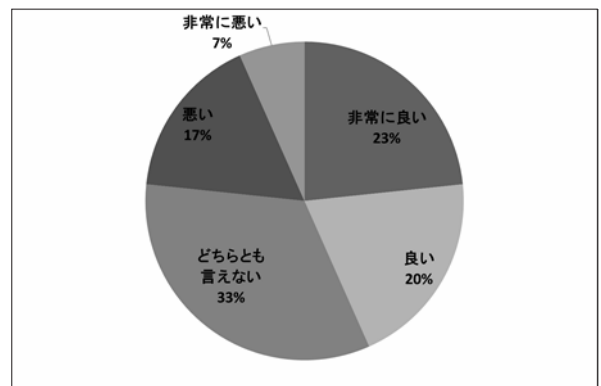


図12. 現在の健康状態 (n=30)

### ②平均就寝時刻

平均就寝時刻は「0時～1時まで」と「1時～2時まで」が最も多く、共に30%となっていた。また、「2時以降」に就寝する学生もわずかではあるが存在している。日付が変わるまでに就寝しない夜型の生活を送る学生が多いことがわかる。

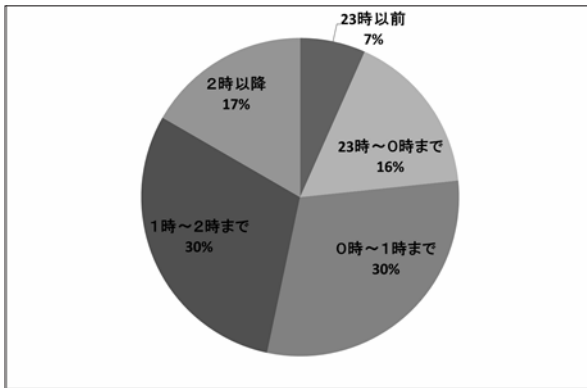


図 13. 平均就寝時刻 (n=30)

### ④朝食の有無

アンケート調査を実施した当日、朝食を食べてきた学生は53%、食べていない学生は47%となっていた。本学の食堂では、朝食の提供があり、かつ萩市の自宅から大学に通う学生もいる。そうした点に鑑みると、自主的に朝食をとる学生の数は少数だと推察される。

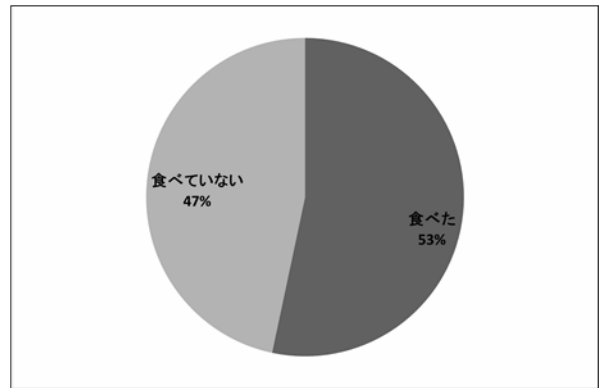


図 15. 朝食の有無 (n=30)

### ③平均睡眠時間

平均睡眠時間は「5時間未満」「約5時間」「約6時間」「約7時間」が同程度で、それぞれ24%、27%、21%、21%となっている。NHKの調査によれば、日本人の平日の平均睡眠時間は7時間14分である<sup>3)</sup>。それに照らし合わせてみると、本学の多くの学生の睡眠時間が不足していることがわかる。

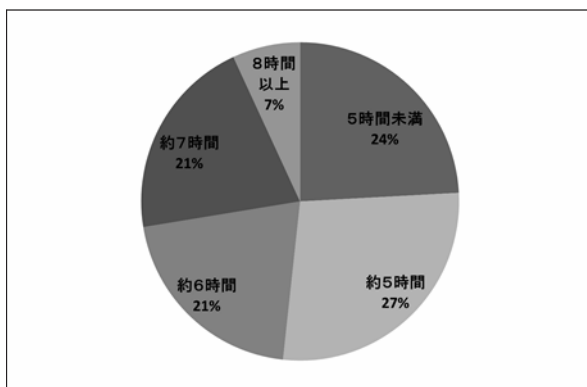


図 14. 平均睡眠時間 (n=29)

### ⑤食事回数

一日の食事回数は「3回」が最も多く67%となっていた。しかし、先の「朝食の有無」については、53%の学生しか「食べた」と回答していない。朝食をとらずに夜食等をとって一日の食事回数を3回にしている学生がいるのかもしれない。なお、一日の食事回数「2回」の学生は27%となっており、「4回以上」の学生も3%存在した。

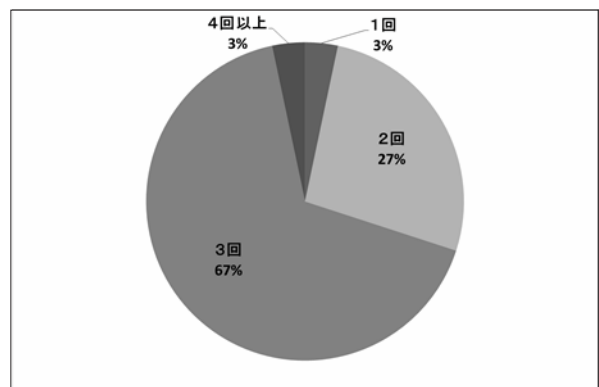


図 16. 食事回数 (n=30)

### ⑥夕食の自炊回数

一週間のうち、夕食を何回程度自炊するか聞いたところ、「全くしていない」と回答した学生が最も多く34%となっていた。一方、「ほぼ毎日」と回答した学生も20%存在しており、それぞれのスタイルを確立している様子が見えてくる。

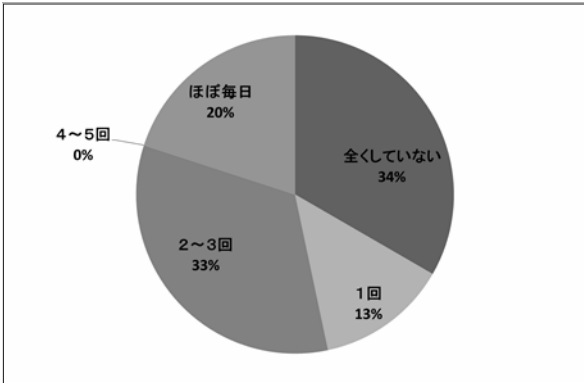


図 17. 夕食の自炊回数 (n=30)

### 3-7 アルバイト

#### ①アルバイトの有無

アンケート調査時にアルバイトを「している」学生は55%、「していない」学生は45%となっていた。本学には強化部に所属する学生も多く、彼らはアルバイトをする時間を十分に持てない。そうした結果を反映したものと考えられる。

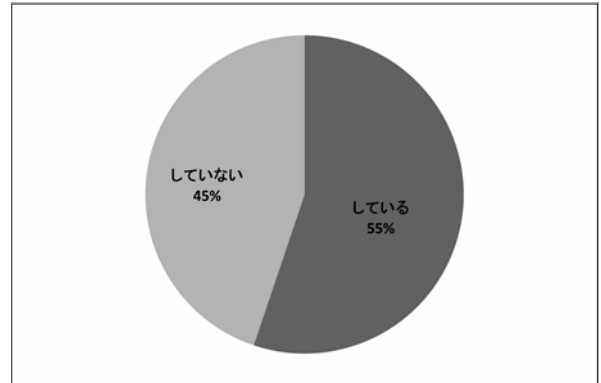


図 19. アルバイトの有無 (n=29)

#### ⑦ストレス原因

ストレスを感じる要因として最も多く挙げられたのは、「自分の性格能力」35%である。また、「学業」「経済問題」「友人関係」も比較的多く、それぞれ28%の学生が該当していた。一方、「ストレスはない」と回答した学生は7%にとどまっており、ほとんどの学生が何かしらのストレスを感じていることがわかる。

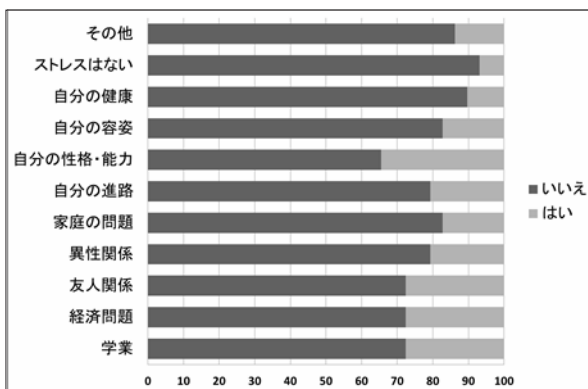


図 18. ストレス要因 (n=29、複数回答可)

#### ②アルバイトの職種 (アルバイトしている者のみ)

アルバイトをしている学生に職種を尋ねたところ、「飲食店の店員」と答えた学生が最も多く81%となっていた。次いで多い「大学内でのアルバイト」は25%程度であり、職種に偏りがみられることがわかる。

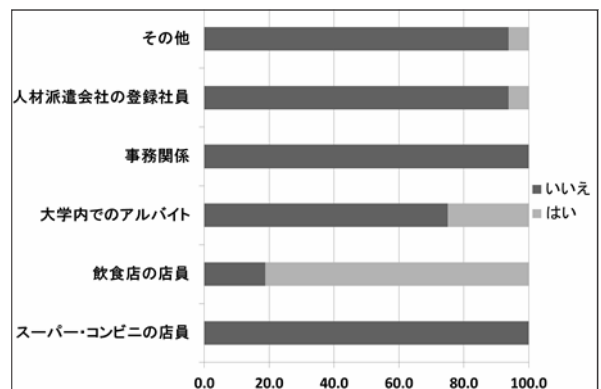


図 20. アルバイトの職種 (n=16、複数回答可)

### ③アルバイト収入（アルバイトしている者のみ）

アルバイトをしている学生に、収入の主な使い道を尋ねたところ、「生活費」と回答した学生が81%と大多数を占めた。「娯楽・交際費」は19%であり、アルバイトをしている学生のほとんどは生活費のために働いているといえるだろう。

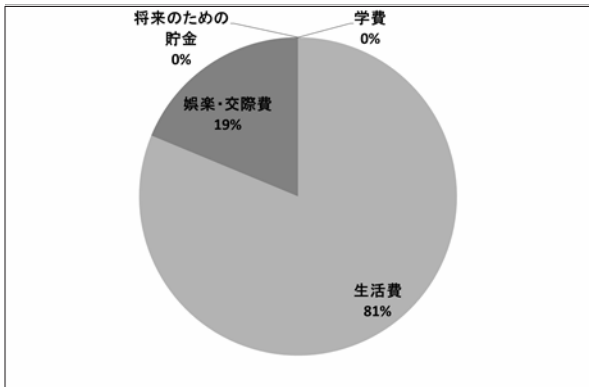


図 21. アルバイト収入 (n=16)

### ⑤アルバイトの満足度（アルバイトしている者のみ）

アルバイトをしている学生に、現在のアルバイト先に対する満足度を尋ねたところ、「やや満足している」と回答した学生が最も多く44%を占めていた。「とても満足している」と回答した学生も31%存在しており、7割以上の学生がアルバイト先に満足している様子が見えてくる。

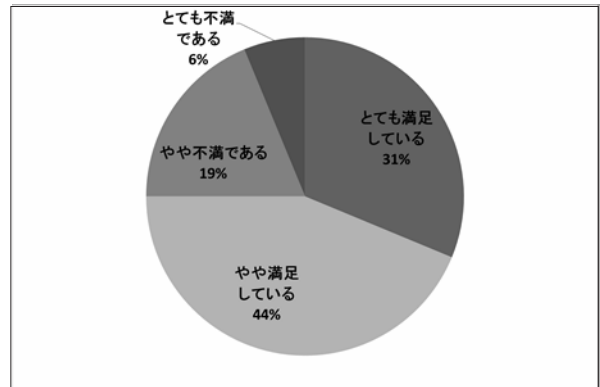


図 23. アルバイト満足度 (n=16)

### ④アルバイト時間（アルバイトしている者のみ）

アルバイトをしている学生に一週間の平均勤務時間を尋ねたところ、「5時間未満」と回答した学生が56%と最も多くなっていた。一方、「11時間以上」と回答した学生も6%存在しており、適切なアルバイト時間でキャンパスライフを送っているか懸念される。

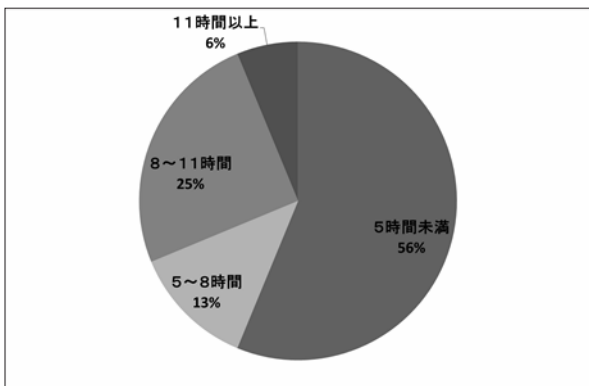


図 22. アルバイト時間 (n=16)

### ⑥通勤方法（アルバイトしている者のみ）

アルバイトをしている学生に、アルバイト先までの通勤方法を尋ねたところ、「自転車」と回答する学生が最も多く63%となっていた。次いで「自動車」25%となっており、主に大学の「バス」を利用してアルバイトに通う学生はいないこともわかる。

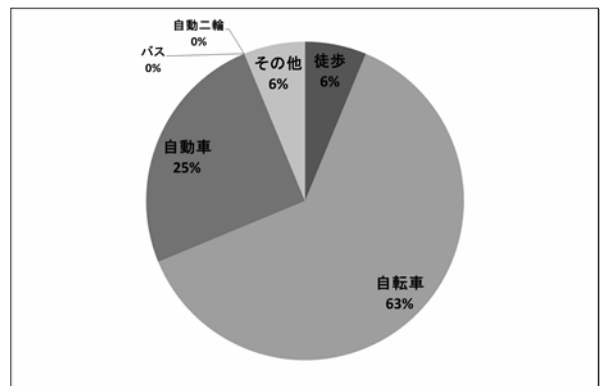


図 24. 通勤方法 (n=16)

### ⑦希望するアルバイト

どのようなアルバイトをしたいか尋ねたところ、「収入が良い」が最も多く53%となっていた。次いで「自分の将来の仕事に役立つもの」17%、「仕事が楽」10%、「自宅から近い」10%となっており、アルバイトに対してそれぞれ異なった思い入れがあることがわかる。

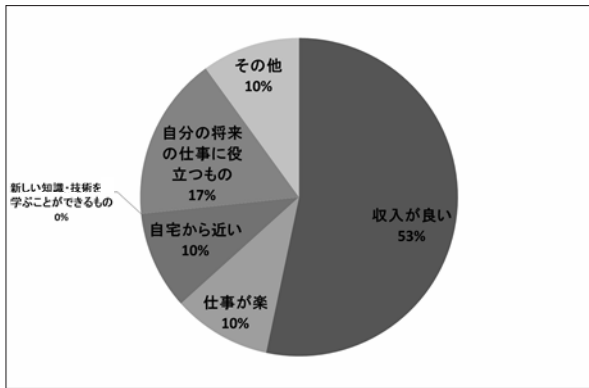


図 25. 希望するアルバイト (n=30)

## 4 おわりに

本稿では、平成24年度に山口福祉文化大学萩キャンパスに入学した学生を対象とした生活実態調査の結果を報告してきた。調査の結果からは、授業に出席し、アルバイトや部活・サークル・同好会にも積極的に参加する学生が多く、彼らが充実したキャンパスライフを送っている様子が見えてきた。

その一方、卒業後の進路を絞り込めていない学生が少なくないことも明らかになった。図10のグラフでは、

卒業後の進路を決めていない学生が67%にのぼることが示されている。今回の調査は、一年生を対象に入学間もない6月の時点で実施されており、調査対象者はまだ漠然としか将来の展望を考えられなかったものだと推察される。キャンパスライフを通して自分のやりたいことや適性を判断することは重要である。本学ではこれまでも初年次からのキャリア教育を行っているが、そうした取り組みの中で継続的に学生に声掛けを行っていく必要があると再確認させられた結果だといえるだろう。

以上、平成24年度学生実態調査の結果をもとに、本学の学生の状態について検討してきた。しかしながら、今年度は単年の分析にとどまっている。今後、継続的に調査を実施し、学生の現状を把握する必要があるが、その点については次年度以降の課題としたい。

### [引用・参考文献]

- 1) 文部省高等教育局；大学における学生生活の充実方策について－学生の立場に立った大学を目指して－，（[http://www.mext.go.jp/b\\_menu/shingi/chousa/koutou/012/toushin/000601.htm](http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/koutou/012/toushin/000601.htm)）（2012/8/3），2000
- 2) 山田浩之・葛城浩一；現代大学生の学習行動（高等教育研究叢書90），広島大学高等教育研究開発センター，2007
- 3) NHK 放送文化研究所；日本人の生活調査2010 [http://www.nhk.or.jp/bunken/summary/research/report/2011\\_04/20110401.pdf](http://www.nhk.or.jp/bunken/summary/research/report/2011_04/20110401.pdf)（2012/8/3）